

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400172		
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会		
事業所名	老人グループホーム とぎしの家		
所在地	島根県雲南市大東町東阿用83-1		
自己評価作成日	令和1年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=327](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=327)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	令和1年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は山や田んぼが近くにあり自然が豊かな場所である。裏庭には畑がありさらにのどかな雰囲気である。ご利用者の方々が自ら畑へ行き草取りや野菜を収穫されることもある。日々の活動で掃除や散歩等を行うことで生活リハビリを行っている。掃除にいたってはご利用者の方々の日課作業となっている。食事は畑で収穫した野菜を使いながら手作りの食事を提供している。ご利用者の方々が「美味しい。美味しい。」と口ぐちに言われるほど美味しく温かい食事である。また、職員も同じメニューと一緒に食べるにより家庭的な雰囲気を大事にしている。ご利用者の方が自由にご家族と過ごして頂く為に、ご家族のご希望時に外出や外泊されることもある。ご家族とは離れていらっしゃって繋がっているという絆も大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、毎月の利用料支払日にあわせて家族と話し合う機会を持ち利用者の状況や家族が困っていること、不安なこと、求めていることを聴き一緒に利用者が安心して暮らせるよう支援している。職員同士が「笑顔」を心掛けることで利用者の「笑顔」につなげ、利用者は自由に草取りや散歩が出来、のんびりとゆったりした生活をしている。地域の人との関係を大事にし行事やイベントへの参加や、園児、小学生との交流を続けながら、さらなる理解者やつながりを深めるため課題を明確にしてサービス向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のんびり・ゆったり・心地よく・やさしい言葉・やわらかな笑顔を大事にして支援を行っている。カンファレンスで話題として話すこともある。	理念に沿い「のんびりとゆったりと」を心がけて支援している。職員の都合で行動していないか意識して日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の学校授業を通して交流し、ご利用者の方々が生き生きされている表情がみられる。職員は地域の認知症カフェに参加して認知症の話をさせて頂いた。	地域行事に参加したり保育園や小学校、交流センターなどを通じ交流している。地域の人に裏庭の畑を耕して貰ったり古布を届けて貰うなど協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の企画されたイベントでミニ勉強会として認知症の話をさせて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービス状況や取り組み等について報告を行っている。その際には委員の方に意見や感想を頂きサービスの向上に努めている。	利用者状況や活動報告を行い質問を受けたり意見交換を行っている。地区合同避難訓練の報告では反省点や課題を共有した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に広域連合介護保険課や包括支援の職員の方々に参加して頂き協力関係を築くようにしている。	事業所の現状を伝え情報や助言を受け、日頃から相談できる関係を築きサービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関や裏口の鍵は開けており、自由に入出りが出来るようになっている。	身体拘束をしないケアに取り組み施錠をせず、外に出て草取りをする人や家に帰りたいと歩き出す人にも見守りや付き添いを行い支援している。職員間で学習し理解や共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修に参加し学ぶ機会がある。内部研修として今年アンガーマネジメントをテーマとし職員にアンケートをとって調査し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し代表者が勉強して、その後カンファレンス等で報告会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をしっかりととりご家族の方々と確認をとりながら説明を行っている。また、改正の際も同じく説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回ご家族に対して意見・要望を聞く場を設けている。その意見や要望を計画書等にあげ支援を行っている。	毎月家族が支払いに訪問した時にたよりを手渡ししながら利用者の様子を知らせ、意見や要望を聞く機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスの際に意見や提案を聞く場を設けている。行事の内容について職員で出した提案で行った。	管理者は日頃から意見や要望を聞くことに努め、必要な時には声掛けを多くしたり時間を取って聞き、意見を改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数を重ねた職員又は努力や実績を把握してキャリア職としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して外部の研修参加の促しをしている。職員の個々の力量を把握しながら進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度グループホーム部会があり情報交換したり研修会を企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者とコミュニケーションをとりながら（声掛け・表情をみる等）信頼関係を築いていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査の段階でご家族が困っている事や不安な事など聞かせてもらいコミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族のサービスへの意向を聞き支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での作業を共にしたり、食事を一緒に食べたりと常にコミュニケーションをとり関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の方々すべての方に対象ではないが、ご夫婦の場合、家で奥さんに会われるように希望の時は家へ送迎し家族の絆を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のご姉妹やご親戚の方が来訪され、一緒にお茶を召し上がられながら会話されることがある。また、散歩途中の保育園児が来てくれることがある。	家族の協力を得て一時帰宅したり外食するなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話される際に間に入ることで、その後自然と話が盛り上がりご利用者同士がふれあうところを見守ったりと支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にしているが、ここ近年は必要に応じての相談等はみられない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書を作成するにあたって希望や意向をご本人に聞いている。また、困難な場合はカンファレンス時に職員が考えを出し合い検討している。	夜間などに一対一でゆっくりと思いを聞くようにしている。利用者の思いを家族に伝え、共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時に細かく分類しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書や個人記録で各項目に分けて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1度カンファレンスを行っている。職員が集まり話し合いを行っている。ご本人やご家族も意見も踏まえながら介護計画書を作成している。	利用者の希望を尊重し、家族と話し合い介護計画を作成している。見直した個別の計画や記録用紙は目標、具体策が分かりやすく、現状に即した内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙に個々の目標が記載してある。また、必ず行うケアは用紙に記載してありチェックする。特変時はその様子を詳しく記入し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への外出の際送迎を行ったり、ご本人がご家族の声が聞きたいと電話したり支援等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の散髪店の方に来て頂いていて、利用されることにより利用者の方々に笑顔がみられる。雲南市が企画した余芸大会を見に行かれ楽しまれたり、入居前に参加されていた生協活動にご家族と一緒に参加されることがあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回程度主治医の往診あり状態報告を行っている。また、緊急時、夜間にも適切な医療が受けられるよう支援している。	希望するかかりつけ医の訪問診療を受けたり、協力医の24時間対応がある。必要時には受診の介助をし家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当者は看護師に状態報告を行っている。また、相談し場合には往診や受診の指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は医療連携シートを利用し病院へ情報提供している。大東町である連絡会議では病院関係者も参加され関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・ご家族の希望を聞き事業所で出来ること出来ないことを伝えている。特にご家族が遠方の方に対して緊急時の対応について話を入念に行っている。	入居時から意向を聞き、病状変化時にはその都度話し合いながら対応している。事業所で出来ることを伝え家族の協力を得て今年も看取りの支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で話や書面では説明していても訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時の避難訓練を地域の方々と行った。ホームには消防団の方が救助に来られた。全職員には意識的になるようにミーティングの際言葉掛けを行っている。	火災訓練、夜間想定訓練、備蓄など対応し、地域の人と水害時の避難訓練を行った。地域消防団との協力体制を築けるよう日頃からコミュニケーションを深めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや接遇に気を付けて対応を行っている。状況によったり余裕がないときなど指示語を使用していたことがある。自己で反省したり会議で話をして対応している。	一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に気をつけている。対応が難しい時は他の職員と変わったり、笑顔で対応するよう鏡で笑顔の表情を確認する等工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どちらがいいですか。」とご利用者に対し声掛けしご本人が選択できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にしながら支援を行っている。場合によって体調不良等の方がいらっしゃる時にはこちらの都合を優先するときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を使用される方に対してなくなる前に補充したりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の方が盛り付けをして下さったり、たまには味付けをして下さることもある。食事は職員も一緒に同じメニューを食事し協力し合いながら片付けされるときもある。	畑の野菜を収穫したり、食べたいものを聞いて一緒に買い物に行ったり調理の手伝いや後片づけなど出来ることを行えるようにしている。利用者同士の会話に職員も入り和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握を行っている。場合によっては主治医や調理担当に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の方に対しては毎食後行っている。夕食後は全員の方に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや失禁状況を把握して声掛けをしながらトイレでの排泄を支援している。	習慣を理解し、排泄パターンやしぐさから見守りやさりげない声かけを行い利用者に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂り方に気を付けたり体操や歩きなど腸の動きがよくなるように支援している。それでも難しい場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく個々に沿った支援をと思っているが、職員の都合になっていることが多いように思う。	利用者の希望に沿った入浴支援をしている。浴室は温度管理をしてシャワー浴でも気持ちよく入浴出来るよう環境を整えている。夕食後に入浴する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息を促したり安眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認に努めているが、副作用等把握していないことが多い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業が好きな方は種まきや草取り、収穫などして頂いている。また、計算の得意な方は計算が必要なときお願いしている。楽しみごととして時には保育園へ行き交流をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域の祭りに出掛けて頂いたり花見の時にはドライブや散歩に行ってもらった。また、遠足では出雲大社・出雲空港・長者の湯へ行かれた。	天気の良い日は散歩や日光浴、草取りなど自由に出来るように支援している。スーパーへの買い物やデイサービスと協力し遠方へドライブする等外出の機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足の際にはご家族と相談しお金を所持されお土産を買われることがあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったとき奥さんに向けて電話を掛けられ安心されることがあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にはいろいろな作品が貼ってあり、賑やかな感じである。ホールにはソファがありほっと一息してもらう空間である。	利用者と職員手作りの作品を飾り季節感を取り入れている。ソファや和室の部屋で寛げる場を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり過ごされたりテラスで日光浴されたり、和室を活動の場とされることもあった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものを置かれたり居心地の良いうように飾らせて頂いている。	使い慣れた家具やテレビ、写真が置かれている。移動しやすいようにパーや家具の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なくバリアフリーであり手すりも多くあり、安全な環境づくりを行っている。		